

まちづくり懇談会記録

開催日時	令和2年2月10日(月) 午後6時00分～午後7時30分
場 所	野花南多目的研修センター
出席者等	○市民参加者：男性12名 女性 7名 合計19名

会 議 の 概 要

1 開会 【総務部長 司会進行】

2 市長あいさつ

○荻原市長あいさつ

皆さんこんばんは。お忙しいところ夜間にもかかわらず、こうして出席いただきありがとうございます。会長をはじめ、野花南町の皆さんには、市政の推進、まちづくりに関しまして温かいご支援をいただいておりますことに感謝を申し上げます。この懇談会は、4日から14日まで、市内11か所において開催しており、大きく2つのテーマについて、ご意見を交わしていきたいと考えているところです。

今、世界的に感染拡大が進んでいて心配しているのが新型コロナウイルスであり、なかなか収束の見通しが見つからない状況です。加えて、積雪が非常に少なく、今後、大きな影響が出るのではないかと心配をしておりますが、関係者の皆さんと連携して、必要な対策はしっかりとしていかなければならないと考えております。また、野花南の架道橋の改修は2月末までかかるとされていましたが、復旧が早く終わり5日にJR芦別富良野間の運転が再開されたことに安堵しているところです。

そういう中におきまして、詳細については担当からご説明申し上げますけれども、懇談会の内容について概括的に申し上げますと、一つは、市庁舎の関係になります。庁舎は昭和44年に建設し築後50年が経過しており、耐震性が劣り改修をしていないことから、震度6強で倒壊の恐れがあるという状況であり、行政としては、市民の皆様ごの安全・安心、行政機能、防災機能をしっかりと保全していかなければならないと思っております。いろいろと検討しましたが、耐震補強するよりも将来的には建て替えの方が効果的であると考えております。しかし、多大な金額がかかるものであり、将来に負担が残らない形、国も一定の補助制度を持っているので、状況を見極めながら、市の財政面も併せて検討を加えていかなければと思っております。

もう一つは市立病院の事ですが、常勤医師の不在、あるいは人口の減少等で患者さんが少ない状況であり、経営も厳しいというのが実態です。昨年、厚労省から全国で424の病院、道内においては54の病院を再編・統合の対象とするという公表があり、芦別市も対象となったわけでございます。これを受けて、昨年の2月から今年1月まで、病院のあり方についての検討委員会というものを有識者で組織して検討いただきました。結果については担当から申し上げますけれど、将来にわたって市立病院をどうやって守っていくのかということでもあります。私どもとしては、地域の公立病院として存在することが安全・安心に繋がっていくことだと思っております。開業医も藤島先生が亡くなり、橋本先生のみとなっていますが、そういった状況からすると、なおさら公立病院が果たさなければならぬ役割が高まっていると考えております。しかし、できないことはできないので、できる範囲の中で続けていくことが大事だと思っております。

これらのことなどを含め、あり方検討委員会の答申内容を報告し、改めて皆様から忌

憚のないご意見等をいただきながら、有意義な懇談の場となりますようお願いを申し上げます、開会にあたってのあいさつといたします。今日はどうぞよろしく願いいたします。

3 説明事項【担当者より説明】（資料添付省略）

- (1) 芦別市総合庁舎建設基本構想（素案）について
- (2) 市立芦別病院のあり方検討委員会の答申について
- (3) その他
 - ・北森カレッジの本市での実習について
 - ・新型コロナウイルスの対策等について

4 意見交換

○市民

庁舎に関して、最終決定はいつ頃を予定しているのか。

●危機対策課長

今回お渡ししたのは基本構想ですが、この後に基本計画を年度内に作成します。その時点で建てるかどうかを決定しますが、現在のところ、市では、耐震基準を満たしていないということがありますので、何か手立てを考えなければならないと考えています。過去には、耐震化や他の施設を利用するなどを検討しましたが、費用対効果を考えた時に建設することが一番であると考えています。

○市民

決定したときには説明があるのですか。

●危機対策課長

資料の21ページをご覧ください。ここの中に事業スケジュールとして、令和2年度中に市民説明会と書いてあり、この段階では基本計画の説明をすることになります。

○市民

庁舎に耐震性がなく震度6までの耐震性だとのことですが、芦別の場合、地盤がいいということで、東日本の震災時でも震度4ぐらいでした。データを見るといろいろ書いていますが、芦別の庁舎はどのくらいの震度まで耐えられるのですか。

●危機対策課長

資料の2・3ページ目に耐震性について記載しています。芦別の地盤は固いとありましたが、いろんな異常気象が起こる中、今後も震度6強以上の地震が来ない保証はないと思っています。震度6強の耐震は、建築基準法が昭和56年に改正された以降の建築物は満たしている状況です。芦別市役所の建設は昭和44年ですので、この基準を満たしていない状況にあります。ただし、どのくらいの地震が来たら倒壊するのかという調査は、申し訳ありませんが実施していません。庁舎の一番弱い部分は、一階部分で南北・東西どちらで検証しても崩れる可能性があるとなっています。ほかにも、旧消防庁舎など弱いところがあります。

○市民

今回の懇談会で庁舎の話が出るのは初めてです。建替えありきで、いきなり話がされているわけですが、芦別も他にたくさんやることがあるわけで、ここに35億のお金をつぎ込まなきゃならない、国の補助金があるようなことも説明にありましたが、令和3年3月までに実施設計をなささいということは、1年あるかないかの中で判断しなくてはならない。乗り遅れたら補助金がもらえないということだと思います。

そういったことを踏まえて、どうしてもやらなければならないのかなという意見もあると思います。今の財政難の中で、他にやるのがたくさんあると思います。昨年から始ま

った行財政改革で、いろんな削減がなされていますが、町内会の行政事務委託料も世帯の見直しによって8万円ぐらいの減額になり、また諸経費が10パーセントから5パーセントに引き下げると言われています。他に、防犯灯の電気料金の補助率、ごみステーションの補助も縮小され、老人クラブに対する経費も削減案が出ています。町内会もそうでありますが、会費を上げざるを得ない状況になっているなどを考えると、非常に先行きが不安になります。健夏まつりも1日に縮小するような話を聞いています。このように、全てが縮小傾向にある状態で、35億の工事費がかかる事業をこの時期にやるのが適当であるのか不安に思います。

●市長

大変不安を与えているということに理解いたします。さまざまな問題提起をいただき、行財政改革、何もかも縮小というばかりではなく、私は縮充と言っていますが、ただ縮まるのではなく、その中で機能・サービス面で充実をとれないのかと考えています。全体的に人口規模の縮小があり、それに伴っての経済規模の縮小もあり、市の立場からすると税収の落ち込みもあります。地方交付税も大きく期待はできなく右肩下がりとなってきているなど、入りが少なくなっていて、出る経費を工夫していかなければ収支が欠損しますので、入りと出をバランスよく対応することが求められていると思います。施設をとってみても、同種類の物は一つにするとか、不便はかけるかもしれませんが、ご協力いただき、その施設でのサービスに対してはしっかりと対応していくことを考えています。今の質問で行財政改革の中のいくつかについて指摘もいただきましたが、防犯灯や行政事務委託料についても質問をいただきました。

どのような方向付けになるのかは協議次第ではありますが、主旨としては、下げることが目的ではなく、まち全体の利益ということが大事だと思っていますし、今だけがいいのではなく将来にわたって良くなければならぬと考えています。目先の事だけで対処するのではなく、将来に向かって責任を持たなければならないことから、長期的な視点に立って困難をどうやって乗り越えていくのかが私たちに与えられている大きなミッションだと思っています。いずれにしても、皆さんが元気に明るく、まちづくりに関わっていただくことが大事だと思っています。これは、決して行政だけでできることではなく、市民の皆さんが力を合わせて、芦別の将来をどうつなげていくのかと、そのためには一人ひとりがどう関わりを持っていただけるのかということが大切だと思っています。そういうことですので、どんどんご意見をいただきお互い知恵を出し合っていけば、いろんな方向が見えてくると思っています、問題提起を含めた行財政改革の提案だととらえてもらいたいと考えています。

健夏まつりにつきましても、2日間から1日になるのではとお話がありました。これについて、実行委員会等で議論することとなっていますが、市民参加という形での千人踊りと健夏山笠、大きな行事が2つあって、それを1日にできないかという議論があり、それぞれの立場からは、一緒になって1日とするのはなかなか難しいという話をいただいているようです。できないことはできないですから、できるようにどうするかとお互い知恵を出すことが重要だと思っており、いかに経費をかけないで、姿を持続できるかということが皆に問われているところだと思っています。市民の皆さんに不便をかけることは、我々も使命としているところではないので、今の状態をキープして満足していただけるためにどうするのかを考えていくことが基本にあることをお伝えしたいと思っています。

庁舎の関係ですが、今、三十数億の事業が必要なのかとのご指摘でした。芦別では、東日本大震災や胆振東部地震において震度4を経験しています。庁舎の建設に関しては、今まで国の助成制度はありませんでしたが、東日本大震災等の災害を受けた時に、役場が壊滅的な状態になってしまったことがありました。行政機能が止まるということは、それ以

上進まなくなりますので、行政機能・防災機能を保全するため国が支援すると、まちが機能しなければ国も機能しないので、そういう状況の中、新しく制度ができた経過があります。この制度は、時限立法で平成29年から令和2年度までとなっています。この間に実施設計をすれば補填しましょうと、補填といっても2割となっていて、補填の仕方としては、起債という借金をして、その元利償還に対して2割補填し、8割は自治体負担ですというものです。計算すると、毎年1億数千万の償還になりますが、これをどうするのかとした場合、いろんな財源手当を考えなければなりません、参考までにお伝えしたいのは、カナディアンワールドの償還を毎年1億7千万行っていて令和8年で終わります。将来に行政機能を維持させること、防災機能を維持させることに対して整備を進める折には、その負担をどうするのかをはっきりさせなければならないと考えています。例えば、令和5年に庁舎が完成した場合、三年間据え置いて償還が始まります。その時には、カナディアンワールドの償還が終わる財源を充てていきたい、確かにその数字は、償還が終われば市民の皆さんへの行政サービスに使うべきなのですが、将来にわたっての行政づくりに必要な財源として充てていきたいと考えています。批判があるかもしれませんが、考え方として財源を工夫させていただきたいということがあります。

ない袖は振れませんが、振れないなりに振らなければなりません。市民に皆さんの安全・安心な生活を担わなければならない責任があります。その拠点がしっかりと、存続していかなければならないということで、真剣にこの問題に向き合っているところですので、安直なことは申し上げられませんが、色々な観点を含めて、しっかりと歩みだせるような庁舎の建設を考えていかなければいけないと思っています。

○市民

場所的には変わらないのでしょうか。道路を渡らなければいけないのは、大変だなと気がかりなのですがどうなのでしょう。

●危機対策課長

福祉センター横の駐車場に新庁舎を立てますが、その部分にも来庁者用の駐車場を設けますので、必ずしも道路を渡ることにはならないと思います。

○市民

病院について、医師が少なく、国からのご指導もあって、第三者等の意見を基に100床ぐらまで少なくしたという話ですけど、毎年、1億を市の一般会計から繰り入れていて、これがいつまで続くのか、この金額を念頭に置いて経営していくのか、少なくしていく方向で考えているのか教えてほしいと思います。

●病院事務課長

令和元年度の決算を迎えるにあたって、この半年間、昨年8月に総務省の経営アドバイザーに来てもらい、増収に関する助言をいただいています。その際に、こうすることで診療報酬が取れるという助言をもらって実践していきまして、今年だけでも3~4千万の増収が図られそうです。一方で、100床にしたことに関して、国の特別交付税の額が約5千万円増額になり、合わせると7~8千万円という数字が今回出てきていますけれど、半年の対策でそれくらいの金額になっています。これが年間を通してとなると、倍額になるだろうと予測できます。それ以外にも増収案をいただいております、できることからやりたいと考え、院内でプロジェクトチームとして委員会等を設置しており、そうすることでもう少し増収が図れると思っています。

また、あり方検討委員会の答申で病棟再編という話があって、実践するとなれば、空いている3階の方に病棟を移すことで、4階に7つの個室を13に増やすことができ、有料個室としての増収も期待できます。4階の大部屋を5人から4人にしようとも考えていて、患者さんの一人当たりの面積が広くなり環境が良くなるなど、今までと違った視点からや

りだすことで増収が図られて、収益の改善ができればと思っています。

そういったことが少しずつ実践できていけば、当初の話では、毎年1億円の基準外繰入となっていて、令和2年度も同様に予算組みしていますが、少しでも早く基準外繰入金無くすことができるよう収支の改善を図りたいと考えています。

○市民

細かい話をさせてもらいますけれど、芦別温泉が3月いっぱい閉鎖すると聞いています。高齢者や障がい者には、無料券が当たっていますが、財政難として3月で終了とするのか確認したいと思います。また、芦別の駅が新しくなったことに関して、以前の懇談会でも話しましたがトイレが和式のままになっています。駅は芦別の玄関口となります。乗り降りする方、待合室にいる方がトイレを利用するだろうけど、6千万を掛けながらトイレを洋式にするぐらいはできなかったのか確認したいと思います。

●総務部長

芦別温泉の高齢者や障がい者を対象とした温泉券について、現在の券は6月30日まで使用できます。差額分150円をお支払いいただくことで、星遊館を利用することができるようになっており、7月以降の分についても、同様に料金を追加することで星遊館を利用できることとしています。芦別駅のトイレに関しては、過去から洋式にしてほしいと要望があるところで、そのたびに同じような回答になっているのですが、JRの施設であることから、実際に改修を行うのはJRとなります。今回駅前の整備を行うに当たって、改めて要望をしたのですが実現に至っていない状況です。市の方ではできないのかとのお話でしたけれど、市の施設ではないことから、縦割りと思われるかもしれませんが、JR側で対応してほしいと要望しているところです。

○市民

国設スキー場は、議会に通していただいて3年間は継続することとしてワイヤーの交換をしましたが、3年が経過して休止ということになりました。この間、指定管理者の公募をする予定であるとの説明がありましたが、公募がなかった場合にリフト券の改正などを実施したうえで、市で運営を継続していく可能性はあるのでしょうか。また、今年は、市内の学校利用が3校でリフト利用が1000人を越え、歌志内や上砂川のほか、赤平から2校の利用があり、例年の倍の実績がありました。こういった面からも、何か考えはあるのでしょうか。

●市長

スキー場は、私の就任時にその年を持って終了するようになっていましたが、ご要望などをいただいて3年間の延長としました。再開する際に、策動のワイヤーが危険であるということで、千数百万の投資をして取り替えました。これは、安全性の確保無くしてリフトを動かすことはできない、命にかかわることですので完璧な状態にしなければならないことから、税を投入したところです。約束の3年が経ち、今後、市は直接手を加えることは避けさせていただきますが、事業の継承、存続、維持に向けて、事業管理者に引き継ぎをしていきたいとして、手続きを進めている最中です。何とか事業体が生まれることを期待しています。万が一、応募がなかった場合は市が改めて直営するのかとのことですが、基本的には、その考えは持ち合わせていません。小学生のスキー場などでの利用や、近隣の子どもの利用があるという実態は把握しています。事業継承できれば解消できますが、事業体が生まれなければスキー授業はできませんので、他の施設に移っていただくこととなります。その折には、それなりの手当てをしていかなければならないと考えており、苦渋の選択をせざるを得なかったのですが、子どもたちへの対応は図っていきたいと考えています。

繰り返しになりますが市は、この3月で廃止ではなく休止をすることとしています。

オファーがないわけではありません。北海道とすり合わせをしながら、各方面に声掛けを行っており、期待をしている状況であります。

○荻原市長あいさつ

お疲れの中、最後まで熱心にお聴き取りいただき、貴重なご意見やご提言をいただきありがとうございました。スキー場の事で捕捉になりますが、事業管理者による運営がされた際には、市民に対するリフトの特別料金をお願いしたいと思っています。

一つ申し上げさせていただきますと、この4月から芦別の10か年のまちづくり指針となる第6次総合計画がスタートいたします。

将来像は、時には唱和いただいています芦別市民憲章に準じて「みんなで築く 豊かで住みよい 人と文化の輝くまち」と掲げており、第一歩が令和2年度の予算となります。この予算についても大詰めを迎えていまして、計画が一步でも前に進んでいけるように、ご納得いただけるような予算編成に努めて参ります。

これからも、一緒に考え、市政に関してまちづくりに関して力を合わせて行くことが大事だと思っており、皆さんの声を率直に聞かせていただき、共に作り上げていくため、皆さんの元に足を運んで声をいただきたいと考えていますので、引き続きご支援とご協力をお願いしたいと思っています。

寒さも11日までは続くようです。その後、12日から気温が上がり、4日間続くとの予想が气象台から出ています。体調管理には十分ご注意くださいと思います。皆様方のご健勝をご祈念いたしますとともに、ご参会いただきましたことに感謝を申し上げ、閉会の挨拶とします。

5 閉会

以 上